

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300022		
法人名	株式会社 ウェルフェアフォレスト		
事業所名	グループホームすだちの里	ユニット名	1丁目
所在地	仙台市若林区沖野7丁目6-30		
自己評価作成日	平成 22年 12月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域との繋がりに重点を置き、地域に支えてもらえるような、環境を作っていきたい。 また、1日でも長く、入居者様自身が、自分らしい生活を送れるように支援していきたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは霞の目飛行場近くの住宅地の一角にあり、同一敷地にデイサービスが併設されている。入居者は系列法人の協力医院をかかりつけ医として、月2回往診で受診している。また、協力医院の看護師とは24時間の連絡体制にある。歯科医の往診・口腔ケア・服薬指導など健康面にも力を入れ「自分らしい生活」が送れるよう支援している。地域との関わりについては、管理者の交代を機に今まで控えめだった交流も今後は地域・近隣住民・行政・同業他者と積極的にいき、地域との関わりを大切にしたいとしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 すだちの里)「ユニット名 ユニット名 1丁目 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と各ユニット毎に理念を掲げており、各ユニット毎の理念は、見直しを行った。地域との関わりのある理念を掲げ、繋がりを大事にしていこうという意識が増えてきていると思う。	事業所の「職員一同人間性豊かな介護を目指していきます」という理念に加え、「地域にとけこみ・安全安心で・自分らしく楽しく」「地域との関わりを大切に・家庭的な雰囲気の中で楽しく」とユニット毎に別に設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、少しづつではあるが交流を持てるようになってきた。近所の芋煮会や、地域の防災訓練にも参加することが出来たので、今度はホーム側で何か出来ることを考えていきたい。	地域行事への参加以外に中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、季刊誌「すだちの里便り」を回覧板にはさんで配布する等活动しているが、今後様々な取り組みを工夫し地域や住民との更なる交流が望まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	10月の運営推進会議で、認知症サポーター養成講座を開催した。近隣の方にチラシを配って参加を呼び掛けたが、参加者はいなかった。しかし、これを第一歩と考え、これからも近隣の方へ発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催時には、毎回議題を挙げて意見交換を行った。頂いた意見は、職員と話し合いをし、改善するなどしている。	会議は年6回開催され、家族等からの質問・要望も数多く出されている。ただ、行政側の地域包括支援センター職員の出席が年に一度だけであった。また、地域の防災担当者をメンバーに加えるよう検討願いたい。	事前に日時・議題等を決めて書面にて連絡するなど、多くの方が回数多く参加できるように工夫して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡するのが遅かったりなどして、地域包括支援センターの方を、なかなか、呼び出すことが出来なかった。地域との付き合い方について一度相談したことがあるが、今後は、もっと協力関係を築いていけるようにしていきたい。	仙台市との接点は定例報告や実地指導の範疇に留まっている。地域包括支援センターに関しても数回相談したことはあるがホームの取り組みを積極的にPRすることはしてこなかった。	地域包括支援センターに出向きホームの実情や取り組みを積極的に伝え、意見交換を図るよう努めていただきたい。また、運営推進会議への出席も働きかけて頂きたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はセンサーマットを使用し、鍵は掛けていない。一度、緊急やむを得ない場合で、四点柵を行ったが、話し合いを重ね、すぐに解除することが出来た。年間予定を立てて勉強会を行っている。	身体拘束委員会を中心に2ヶ月に1回身体拘束による弊害について勉強会を開催し理解を深めている。日中は施錠をしていないが、無断外出が頻繁な方の安全のため、センサーマットを併用しながら見守りをしっかり行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会が中心となり、2ヶ月に1回、勉強会を実施して理解を深めていっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に、学ぶ機会を持っていない。地域包括支援センターの方をお願いをして、勉強会を開催してみたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	病院の支払い方法の変更の際、ご家族様から意見が上がった。運営推進会議にて、本部の者と話し合う機会を持って改善している。変更等がある場合は、その都度書面でお知らせし、必要時には同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見やご要望があった場合には、承諾を得て、誰にでも見られるように、名前を伏せたくてで玄関先へ掲示している。その意見を基に、職員間でも話し合いをしている。	運営推進会議への家族の出席率も高く、席上意見・要望が出されることも多い。入居者への面会時も職員から積極的に要望を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、管理者会議で、管理者が持ち寄った意見を聞いてくれている。また、出来ることは反映してくれている。管理者は、職員全員と面談を行った。今後も、定期的に面談を行い、意見を反映出来るようにしていきたい。	ホーム内の各種会議で発言しやすいよう雰囲気づくりをしている。11月に初めて管理者が職員と面接を行い、意見・要望を汲み取ることができた。また、職員による各種委員会が事業運営に様々な提案をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績を、把握出来ているか不明だが、働きやすい環境を作れるように、考えてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へどんどん参加するようと言われており、機会を設けてもらっている。法人内研修もあるので、そちらにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんどない。様々なネットワークを活用し、交流出来る機会を作っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は、一番不安を感じる時だと思うので、言葉だけではなく、行動からも精神状態を読み取ることが出来るようにし、職員間で共有出来るようにしている。また、不安や要望があれば、安心感を得られるよう対処したり、改善出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、困っていることなどの相談に対しては、ホームで出来る対応を説明したり、入所前や入所してからも、その都度解らないことなどには説明し、要望も改善出来る部分を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと見極められるように、話を聞いたり、様子を見ていくようにしている。必要なサービスがあれば、提案していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や、食事作りの家事作業をしている。また、解らないことを尋ねると教えて下さったりし、入居者様に助けられている部分が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に、入居者様を支えられるように、面会や外出、病院受診をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や友人との関係までの聞き取りをするには至っておらず、途切れている。電話があったり、面会の際には、ゆっくりと話せるようにしている。葉書が届いたら、書ける人には書いてもらいたいと思う。	行きつけの商店、理・美容店、飲食店等入居者が付き合い続けられるように支援している。ただ、知人・友人との往来は互いに高齢になり難しくなったので電話や手紙を活用できるように奨励している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で関わっている時もあるが、間に入って仲を取り持つこともある。仲の良い入居者様同士では、お互いの居室を訪ねたり、寝ている方を起こしてもらったり、足が不自由な方のご飯を運んでもらう、場所が解らない人には教えて上げたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、他施設であれば会いに行ったりしている。今後は、季節の挨拶や年賀状、すだちの里新聞を送るなどし、関係性を保っていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から話しを聞いたり、普段の会話の中から探って実現出来るようにしている。コミュニケーションを取るのが難しい場合でも、その人の立場に立って考えるようにしている。	入居者担当職員だけでなく全職員が携わって入居者の様態把握に努めている。自己表現の困難な入居者については日々の暮らしの中での表情や行動を汲み取ることを重ね、思いや意向を把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、詳しく聞き取りをしている。入所後も、昔のことなどをご本人様やご家族様に聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	休みたい人は休む、日課の新聞を取りに行くなど、その人にあった過ごし方をして頂き、必要な場合は支援している。また、状況の把握に努め、状況簿に記入し、職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを実施している。その他、必要であれば話し合う機会を持っている。ご本人様やご家族様へも必ず聞き取りを行い、必要時は医療関係者からもアドバイスをもらって、計画に載せている。	毎月夜勤者を除く全職員により入居者全員のモニタリングを行い、ケアプランに反映させている。日常生活の中で状態に変化がみられる場合は随時カンファレンスをし見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、状況簿を記入している。また、いつもと違った様子や、実践したことに対して、入居者様がどうであったかなど、詳しく記入しており、必ず目を通して印を押している。その他、個別に申し送りがあり、詳しく記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の希望や、必要としていることを考え、動けるように努めている。訪問理容や福祉用具の購入なども、ホームで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催し物などがある時は、なるべく参加するようにしている。地域の方のボランティアを呼んだりもする。近所の商店に行って買い物をすると、店の方が温かく見守って下さる。先日は、一緒にポスター貼りを行いながら、挨拶もしてきた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院はあるが、入所時に長年診て頂いたかかりつけ医に診てもらいたいという希望があれば、そのまま変更をしなくても入所は可能になっている。	現在、入居者全員が系列法人が運営する協力医をかかりつけ医とし、月2回往診により受診している。協力医院の看護師とは24時間オンコール体制にある。また、口腔ケアや服薬指導も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と連携をとっている。その都度、何かあれば報告し、指示を受けている。また、往診前、往診時にも、体調等を詳しく報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、口頭とサマリーにて情報を伝えている。入院中も、何度か病院を訪れて情報収集し、職員へ伝えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入所時にご家族様へ説明しており、ホーム内で出来ること、出来ないことを伝え、看取り看護についての同意書にサインを頂いている。必要に応じて、ご家族様と主治医との話し合う機会を設けたりもする。主治医や看護師の指示を受けながら、出来る範囲で支援を続けたい。	看取り介護に関する同意書を作成し、全家族に説明し同意を得た。同意書にはホーム側の大まかな方針は示されているものの、具体的にホームとして何ができるのか成文化したものはない。また、法人や職員と方針の統一を図ってほしい。	協力医院も含めた話し合いと関係者間の方針の統一を図り、ホームとしてできることを取りまとめ指針として成文化して頂きたい。また、家族の意向を節目節目で確認する意思確認書の作成もお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未経験の職員が夜勤に入る前には、救命講習に参加してもらった。その他の職員も、一度は研修を受けたことはある。急変時や事故に対してのマニュアルは作成してあるが、定期的な訓練までには至っていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、災害時の必要物品も準備している。職員全員が避難訓練を行ったり、消火器の使い方も実施した。地域の防災訓練に入居者様と共に参加もし、12月の運営推進会議では、地域の方にも声をかけて、防災について話し合いをし、どのような協力体制をとっていくか、話し合う予定である。	年2回の避難訓練では不十分と考え、夜勤担当者全員を対象に夜間想定訓練を3月から6月まで集中的に実施した。スプリンクラーも各居室並びに共有空間全て22年度内に設置完了の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声がけは、小さい声で行うようにしている。その方の性格や精神症状、これまでの歴史を踏まえた声がけが出来るように心がけている。	「自分がされて嫌なことはしない」を基本にトイレ誘導の声掛けは耳元で小声でしている。個人情報を書いた文書は人目につかない所に保管しており、パソコン入力時も離席するときは電源を切る等気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何か希望はないか、尋ねるようにしている。言葉だけではなく、表情や行動からも思いを読み取れるように心がけている。自己決定が出来るように、声がけの仕方にも気をつけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なるべく入居者様のペースに合わせて、希望通りに行くようには心がけているが、職員ペースになっていることもある。今、何をしたいか尋ねて、答えが返ってきても、出来ない場合もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしている方もいる。洋服についても、どれを着るのか確認するようにしている。外出時は、必ず帽子をかぶる人、割烹着がトレードマークの人など、色々といらっしゃるので、その方に合わせて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片付けなどを一緒に行っている。メニューは、臨機応変に変更して、その方に作って頂いている。また、ホットプレートやガスコンロを使用して、目の前で調理する場合もあり、楽しめるようにしている。	食材配送会社の栄養士と相談して献立を決め食材を購入しているが、調理・盛り付け等は入居者と職員の共同作業である。職員は全員同じテーブルで同じ食事を摂り、冗談交じりの会話もあり和やかな雰囲気であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のたてた献立を使用しているため、バランスは取れていると思う。刻みや粥、トロミ付き、治療食にも対応している。水分摂取が少ない方に関しては、チェック表を使って職員の意識付けをすることで提供できるようになったり、ゼリー状にするなどして対応出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。洗浄が不十分な方に関しては、職員が介助している。月2回の往診と歯科衛生士による口腔ケアがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、パターンを把握してトイレ誘導している。夜間は、リハビリパンツを使用する方、日中は布パンツを使用する方もおり、その方に合った対応をしている。また、夜間はポータブルトイレを使用しているが、日中はトイレを使用している方もいる。	日中はトイレ誘導により、大半の方が布パンツとパットの併用になった。夜間ポータブルトイレ利用者が数名いるが、大半はリハビリパンツである。便秘には水分の摂取に重点を置き、下剤に頼らないよう気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼っている部分もあるが、出来るだけ飲まないようにし、水分を多く摂ってもらったり、散歩や体を動かしてもらえようように心がけている。腹部マッサージをしたり、病院でもカマを処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	寝る前に入浴したいという方もいるが、職員の人数の関係上、実施出来ずにいる。出来るだけ夕方にするなどの対応はしている。自分で曜日を指定して入浴している方もおり、なるべく、柔軟に対応している。	毎日入浴を希望される方もいるが、概ね2～3日に1回が大半である。入浴拒否が強い場合には足浴や手浴に切り替える時もある。菖蒲湯やゆず湯などは入居者から好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方にはほうじ茶を提供したり、お話ししたりしている。照明や寝具を調整して、安眠出来るようにしている。昼食後に昼寝する方もいる。「ここには休みに来ている」と思っている方もいるので、昼夜逆転しない程度に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てではないが、目的や副作用等は理解している。用量までは理解していないと思う。解らないことは、協力薬局に尋ねてアドバイスをもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴や趣味、得意なこと、出来ることを理解しており、日々の生活に楽しみや役割が持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一緒に買い物に行ったり、外食や甘い物を食べに行く時間を作っている。近所を散歩したりもする。月に1回は、みんなで出かけられるように、計画を立てているが、施設内に留まり、ご家族様や近隣の方とは一緒に出かけていない。	本人の体調を考慮しながら天気の良い日は散歩や日光浴等戸外に出るよう支援している。個人的な外出も買物や外食、図書館利用、お墓参り等できるだけ要望に応えるようにしている。遠出の外出も松島や八木山動物園、定義山等入居者から好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方については、行っている。また、使い慣れたご自分の財布を、ご家族様に持って来てもらい、買い物時にはなるべく、ご自分で支払いをしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話をしている。希望がなくても、こちらから尋ねてみて、話しをしたいとの要望があれば、掛けている。月に1回、ご家族様へお手紙を出しているの、それと一緒にご本人様のメッセージも同封してみたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレは解りやすいように表示している。クーラーや暖房での温度調節、色々な所に椅子があって休めるようにしている。また、畳処には布団を準備し、いつでも休めるようにしている。	居間兼食堂はユニットにより日の当たる時間に若干の差はあるものの大きなガラス戸を通し、曇りの日でも自然光が取り入れられるよう出来ている。温度調節はエアコンで行われ、更に冬の夜間には床暖房が加えられ快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	だいたい、座る場所が決まっている。一人でいたいという方はそととしておき、寂しそうにしている方には、他入居者様を巻き込んで声をかけ、会話を楽しんでもらえるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた物は、何でも持ち込みして良いことを、ご家族様へも説明している。布団や枕、テレビや棚、お位牌等。ベットが駄目な方は、布団でも大丈夫である。その他、各々の暖簾や居室のカーテンは、入居者様自身が選んだ。	居室入口には手作りの表札や防災加工した暖簾をにより入居者が自室と分るように工夫している。冬の夜間は居間同様床暖房が入る。室内には使い慣れた筆筒や家具、家族の写真等で思い思いに飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりもついている。夜間は、廊下の椅子をきちんと仕舞うなどして、安全に気をつけている。転倒の危険がある人の居室には、マットを敷いている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0495300022		
法人名	株式会社 ウェルフェアフォレスト		
事業所名	グループホームすだちの里	ユニット名	2丁目
所在地	仙台市若林区沖野7丁目6-30		
自己評価作成日	平成 22年 12月 5日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://yell.hello-net.info/kouhyou/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成22年12月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との繋がりに重点を置き、地域に支えてもらえるような、環境を作っていきたい。また、1日でも長く、入居者様自身が、自分らしい生活を送れるように支援していきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは霞の目飛行場近くの住宅地の一角にあり、同一敷地にデイサービスが併設されている。入居者は系列法人の協力医院をかかりつけ医として、月2回往診で受診している。また、協力医院の看護師とは24時間の連絡体制にある。歯科医の往診・口腔ケア・服薬指導など健康面にも力を入れ「自分らしい生活」が送れるよう支援している。地域との関わりについては、管理者の交代を機に今まで控えめだった交流も今後は地域・近隣住民・行政・同業他者と積極的にいき、地域との関わりを大切にしたいとしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名 すだちの里)「ユニット名 ユニット名 2丁目 」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所と各ユニット毎に理念を掲げており、各ユニット毎の理念は、見直しを行った。地域との関わりのある理念を掲げ、繋がりを大事にしていこうという意識が増えてきていると思う。	事業所の「職員一同人間性豊かな介護を目指していきます」という理念に加え、「地域にとけこみ・安全安心で・自分らしく楽しく」「地域との関わりを大切に・家庭的な雰囲気の中で楽しく」とユニット毎に別に設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しており、少しづつではあるが交流を持てるようになってきた。近所の芋煮会や、地域の防災訓練にも参加することが出来たので、今度はホーム側で何か出来ることを考えていきたい。	地域行事への参加以外に中学校の職場体験やボランティアの受け入れ、季刊誌「すだちの里便り」を回覧板にはさんで配布する等活动しているが、今後様々な取り組みを工夫し地域や住民との更なる交流が望まれる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	10月の運営推進会議で、認知症サポーター養成講座を開催した。近隣の方にチラシを配って参加を呼び掛けたが、参加者はいなかった。しかし、これを第一歩と考え、これからも近隣の方へ発信していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催時には、毎回議題を挙げて意見交換を行った。頂いた意見は、職員と話し合いをし、改善するなどしている。	会議は年6回開催され、家族等からの質問・要望も数多く出されている。ただ、行政側の地域包括支援センター職員の出席が年に一度だけであった。また、地域の防災担当者をメンバーに加えるよう検討願いたい。	事前に日時・議題等を決めて書面にて連絡するなど、多くの方が回数多く参加できるように工夫して頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	連絡するのが遅かったりなどして、地域包括支援センターの方を、なかなか、呼び出すことが出来なかった。地域との付き合い方について一度相談したことがあるが、今後は、もっと協力関係を築いていけるようにしていきたい。	仙台市との接点は定例報告や実地指導の範疇に留まっている。地域包括支援センターに関しても数回相談したことはあるがホームの取り組みを積極的にPRすることはしてこなかった。	地域包括支援センターに出向きホームの実情や取り組みを積極的に伝え、意見交換を図るよう努めていただきたい。また、運営推進会議への出席も働きかけて頂きたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中はセンサーマットを使用し、鍵は掛けていない。一度、緊急やむを得ない場合で、四点柵を行ったが、話し合いを重ね、すぐに解除することが出来た。年間予定を立てて勉強会を行っている。	身体拘束委員会を中心に2ヶ月に1回身体拘束による弊害について勉強会を開催し理解を深めている。日中は施錠をしていないが、無断外出が頻繁な方の安全のため、センサーマットを併用しながら見守りをしっかり行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会が中心となり、2ヶ月に1回、勉強会を実施して理解を深めていっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的に、学ぶ機会を持っていない。地域包括支援センターの方をお願いをして、勉強会を開催してみたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	病院の支払い方法の変更の際、ご家族様から意見が上がった。運営推進会議にて、本部の者と話し合う機会を持って改善している。変更等がある場合は、その都度書面でお知らせし、必要時には同意書を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見やご要望があった場合には、承諾を得て、誰にでも見られるように、名前を伏せたくてで玄関先へ掲示している。その意見を基に、職員間でも話し合いをしている。	運営推進会議への家族の出席率も高く、席上意見・要望が出されることも多い。入居者への面会時も職員から積極的に要望を伺うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、管理者会議で、管理者が持ち寄った意見を聞いてくれている。また、出来ることは反映してくれている。管理者は、職員全員と面談を行った。今後も、定期的に面談を行い、意見を反映出来るようにしていきたい。	ホーム内の各種会議で発言しやすいよう雰囲気づくりをしている。11月に初めて管理者が職員と面接を行い、意見・要望を汲み取ることができた。また、職員による各種委員会が事業運営に様々な提案をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個々の努力や実績を、把握出来ているか不明だが、働きやすい環境を作れるように、考えてくれていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へどんどん参加するようと言われており、機会を設けてもらっている。法人内研修もあるので、そちらにも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はほとんどない。様々なネットワークを活用し、交流出来る機会を作っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時は、一番不安を感じる時だと思うので、言葉だけではなく、行動からも精神状態を読み取ることが出来るようにし、職員間で共有出来るようにしている。また、不安や要望があれば、安心感を得られるよう対処したり、改善出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、困っていることなどの相談に対しては、ホームで出来る対応を説明したり、入所前や入所してからも、その都度解らないことなどには説明し、要望も改善出来る部分を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと見極められるように、話を聞いたり、様子を見ていくようにしている。必要なサービスがあれば、提案していく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に掃除や、食事作りの家事作業をしている。また、解らないことを尋ねると教えて下さったりし、入居者様に助けられている部分が多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と一緒に、入居者様を支えられるように、面会や外出、病院受診をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や友人との関係までの聞き取りをするには至っておらず、途切れている。電話があったり、面会の際には、ゆっくりと話せるようにしている。葉書が届いたら、書ける人には書いてもらいたいと思う。	行きつけの商店、理・美容店、飲食店等入居者が付き合い続けられるように支援している。ただ、知人・友人との往来は互いに高齢になり難しくなったので電話や手紙を活用できるように奨励している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ボール遊びやパズル、洗濯物たたみなどを、入居者様みんなで行っている。また、孤立しないように仲介にも入っている。お互いの居室を訪ねたりもしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、他施設であれば会いに行ったりしている。今後は、季節の挨拶や年賀状、すだちの里新聞を送るなどし、関係性を保っていきたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様から話しを聞いたり、普段の会話の中から探って実現出来るようにしている。コミュニケーションを取るのが難しい場合でも、その人の立場に立って考えるようにしている。	入居者担当職員だけでなく全職員が携わって入居者の様態把握に努めている。自己表現の困難な入居者については日々の暮らしの中での表情や行動を汲み取ることを重ね、思いや意向を把握できるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、詳しく聞き取りをしている。入所後も、昔のことなどをご本人様やご家族様に聞き、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員から、何かの手伝いをしてもらうなどは、声がけをするが、それ以外は、ご本人様のペースを尊重している。また、変化があった時などは、状況簿に記入し、職員間で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回ケアカンファレンスを実施している。その他、必要であれば話し合う機会を持っている。ご本人様やご家族様へも必ず聞き取りを行い、必要時は医療関係者からもアドバイスをもらって、計画に載せている。	毎月夜勤者を除く全職員により入居者全員のモニタリングを行い、ケアプランに反映させている。日常生活の中で状態に変化がみられる場合は随時カンファレンスをし見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに沿って、状況簿を記入している。また、いつもと違った様子や、実践したことに対して、入居者様がどうであったかなど、詳しく記入しており、必ず目を通して印を押している。その他、個別に申し送りがあり、詳しく記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	馴染みの床屋や図書館、買い物や映画など、入居者様の希望に沿って対応をしている。		

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の催し物などがある時は、なるべく参加するようにしている。地域の方のボランティアを呼んだりもする。近所の商店に行って買い物をすると、店の方が温かく見守って下さる。先日は、一緒にポスター貼りを行いながら、挨拶もしてきた。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの協力病院はあるが、入所時に長年診て頂いたかかりつけ医に診てもらいたいという希望があれば、そのまま変更をしなくても入所は可能になっている。	現在、入居者全員が系列法人が運営する協力医をかかりつけ医とし、月2回往診により受診している。協力病院の看護師とは24時間オンコール体制にある。また、口腔ケアや服薬指導も行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院の看護師と連携をとっている。その都度、何かあれば報告し、指示を受けている。また、往診前、往診時にも、体調等を詳しく報告している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、口頭とサマリーにて情報を伝えている。入院中も、何度か病院を訪れて情報収集し、職員へ伝えている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合については、入所時にご家族様へ説明しており、ホーム内で出来ること、出来ないことを伝え、看取り看護についての同意書にサインを頂いている。必要に応じて、ご家族様と主治医との話し合う機会を設けたりもする。主治医や看護師の指示を受けながら、出来る範囲で支援を続けたい。	看取り介護に関する同意書を作成し、全家族に説明し同意を得た。同意書にはホーム側の大まかな方針は示されているものの、具体的にホームとして何ができるのか成文化したものはない。また、法人や職員と方針の統一を図ってほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	未経験の職員が夜勤に入る前には、救命講習に参加してもらった。その他の職員も、一度は研修を受けたことはある。急変時や事故に対してのマニュアルは作成してあるが、定期的な訓練までには至っていない。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作成し、災害時の必要物品も準備している。職員全員が避難訓練を行ったり、消火器の使い方も実施した。地域の防災訓練に入居者様と共に参加もし、12月の運営推進会議では、地域の方にも声をかけて、防災について話し合いをし、どのような協力体制をとっていくか、話し合う予定である。	年2回の避難訓練では不十分と考え、夜勤担当者全員を対象に夜間想定訓練を3月から6月まで集中的に実施した。スプリンクラーも各居室並びに共有空間全て22年度内に設置完了の予定である。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声がけは、小さい声で行うようにしている。その方の性格や精神症状、これまでの歴史を踏まえた声かけが出来るように心がけている。	「自分がされて嫌なことはしない」を基本にトイレ誘導の声掛けは耳元で小声でしている。個人情報を記した文書は人目につかない所に保管しており、パソコン入力時も離席するときは電源を切る等気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全てとはいえないが、可能な限り、入居者様が自己決定出来るように、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々のペースに合わせている部分もあるが、職員の都合でしているところも多々ある。入居者様のペースを優先できるよう、業務改善を話し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの床屋や美容室へ行き、ご自分の好みに理髪してもらっている。また、希望のクリームや整髪料、化粧品を一緒に買いに行き、おしゃれが出来るようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様が出来る範囲で、米とぎや切り方等の家事を、一緒に行っている。季節のメニューや行事食も取り入れている。	食材配送会社の栄養士と相談して献立を決め食材を購入しているが、調理・盛り付け等は入居者と職員の共同作業である。職員は全員同じテーブルで同じ食事を摂り、冗談交じりの会話もあり和やかな雰囲気であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士のたてた献立を使用しているため、バランスは取れていると思う。刻みや粥、トロミ付き、治療食にも対応している。水分摂取が少ない方に関しては、チェック表を使って職員の意識付けをすることで提供できるようになったり、ゼリー状にするなどして対応出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。洗浄が不十分な方に関しては、職員が介助している。月2回の往診と歯科衛生士による口腔ケアがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、パターンを把握してトイレ誘導している。夜間は、リハビリパンツを使用する方、日中は布パンツを使用する方もおり、その方に合った対応をしている。また、夜間はポータブルトイレを使用しているが、日中はトイレを使用している方もいる。	日中はトイレ誘導により、大半の方が布パンツとパットの併用になった。夜間ポータブルトイレ利用者が数名いるが、大半はリハビリパンツである。便秘には水分の摂取に重点を置き、下剤に頼らないよう気を付けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼っている部分もあるが、出来るだけ飲まないようにし、水分を多く摂ってもらったり、散歩や体を動かしてもらえようように心がけている。腹部マッサージをしたり、病院でもカマを処方されている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に、なかなか答えることが出来ず、日中のみの入浴になっている。しかし、午前・午後と希望に沿って行ったり、入浴時、音楽を流したり、一緒に歌を唄ったりし、楽しめる工夫はしている。	毎日入浴を希望される方もいるが、概ね2～3日に1回が大半である。入浴拒否が強い場合には足浴や手浴に切り替える時もある。菖蒲湯やゆず湯などは入居者から好評である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない方にはほうじ茶を提供したり、お話ししたりしている。照明や寝具を調整して、安眠出来るようにしている。昼食後に昼寝する方もいる。「ここには休みに来ている」と思っている方もいるので、昼夜逆転しない程度に休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てではないが、目的や副作用等は理解している。用量までは理解していないと思う。解らないことは、協力薬局に尋ねてアドバイスをもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人の生活歴や趣味、得意なこと、出来ることを理解しており、日々の生活に楽しみや役割が持てるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や買い物に出かけている。季節のドライブにも出かけ、楽しんでいる。地域の方やご家族様は、参加したことがない。	本人の体調を考慮しながら天気の良い日は散歩や日光浴等戸外に出るよう支援している。個人的な外出も買物や外食、図書館利用、お墓参り等できるだけ要望に応えるようにしている。遠出の外出も松島や八木山動物園、定義山等入居者から好評であった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来る方は、してもらっている。難しい方は金庫で預かっているが、買い物時、可能な限りご自分で支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話をしたり、電話があった時は取り次いでいる。月に1回、ご家族様にお手紙を送っているが、一筆書いて同封されている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭には花を植えたりし、季節感を取り入れている。室内は、清潔に注意し、季節感のある掲示物を、入居者様と一緒に作成している。	居間兼食堂はユニットにより日の当たる時間に若干の差はあるものの大きなガラス戸を通し、曇りの日でも自然光が取り入れられるよう出来ている。温度調節はエアコンで行われ、更に冬の夜間には床暖房が加えられ快適に過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いたり、畳処、廊下の椅子など、くつろげる場所を確保している。ご自分の席がみんなと話しを出来るようなスペースになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人様を使い慣れた物は、何でも持ち込みして良いことを、ご家族様へも説明している。布団や枕、テレビや棚、お位牌等。ベットが駄目な方は、布団でも大丈夫である。その他、各々の暖簾や居室のカーテンは、入居者様自身が選んだ。	居室入口には手作りの表札や防災加工した暖簾をにより入居者が自室と分るように工夫している。冬の夜間は居間同様床暖房が入る。室内には使い慣れた筆筒や家具、家族の写真等で思い思いに飾られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーになっており、手すりを設置している。居室の表札や掲示物は、入居者様の目線に合わせ、混乱しないよう工夫をしている。転倒の危険がある方の居室の床には、マットを敷いている。		